

令和5年度 第2回 「宇都宮市子ども・子育て会議」 議事録

1. 日 時 令和5年7月13日(木) 午前10時00分～午前11時10分

2. 場 所 中央生涯学習センター 5階 人材かがやきセンター研修室

3. 議 事

- ・ 幼稚園型認定こども園の認定及び利用定員の設定について
- ・ 「(仮称)第6次障がい者福祉プラン」・「(仮称)第7期障がい福祉サービス計画」・第3期障がい児福祉サービス計画」の策定について

4. 出席者(委員:24名,事務局:23名,計:47名)

【委 員】

菊地香織委員, 梅村英美子委員, 青木克介委員, 仙波和夫委員, 栗田幹晴委員, 田代純子委員, 海野仁昭委員, 佐々木佳子委員, 永田文子委員, 松本清美委員, 木嶋香保利委員, 原晃子委員, 新村雅司委員, 関口浩委員, 釜井彰一委員, 小池恵一郎委員, 中野謙作委員, 坪井真委員, 河田隆委員, 菅野大造委員, 浅木一希委員, 笥俊夫委員, 藤井一夫委員, 荒井浩元委員

【事務局】

〔子ども部〕	高野部長, 田邊次長
〔子ども政策課〕	西山課長, 野澤主幹, 近藤課長補佐 佐藤総括, 増山主事, 廣村主事 茂木係長, 高橋総括, 高山主事
〔子ども支援課〕	富山課長, 大牧主幹, 関室長, 西田所長
〔保育課〕	猪瀬課長, 安納副主幹, 江原課長補佐 野澤係長, 島崎主任
〔子ども発達センター〕	塩田所長, 芝野総括
〔生涯学習課〕	鈴木課長

5. 公開・非公開の別 公開

6. 傍聴者数 0名

発言者	内 容
事務局	<p>1 開会 会議の公開について決定</p> <p>2 あいさつ 子ども部長よりご挨拶</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 会長・副会長の選出 会長に河田隆委員，副会長に関口浩委員を選出</p> <p>5 議事 (1) 幼稚園型認定こども園の認定及び利用定員の設定について (事務局説明)</p>
会長	<p>質問・意見等はあるか。</p>
永田委員	<p>何点か質問させていただきたい。</p> <p>まず，基本的には，幼稚園型の認定こども園への移行ということで，設置基準等が全て満たされているという点は納得したが，幼稚園型の認定こども園の設置基準というのは，幼保連携型の認定こども園の設置基準とは違うものと把握している。3番の中鶴田幼稚園については，3号認定のお子さんや2号認定のお子さんがあり，幼保連携型の認定こども園の施設と概ね機能が同じだと考えられる中，設置基準や給付費を幼稚園型にあわせていくといったことが，施設を運営していく上で支障とまらないか気になったので，ご説明いただきたい。</p> <p>また，別紙2について，私は県の子ども・子育て審議会にも参加しており，そちらでは，設置基準だけでなく，教育・保育内容の確認や，予算の見込も提出していただき，総合的な判断をしている。宇都宮市ではそこまでしなくて良いのか，確認させていただきたい。</p>
事務局	<p>1点目の幼稚園型認定こども園と幼保連携型認定こども園の基準や運営の考え方について，委員がおっしゃられた通り，中鶴田幼稚園については，幼稚園型で進めていく。制度上，幼稚園型であっても，0歳からの利用定員が設定可能となっており，条例などで定められた設置基準や公定価格については幼稚園型，幼保連携型などの施設類型による差はなく，0歳から2歳</p>

	<p>の3号認定の部分の受入をするかどうかと言う実質的な部分で、建築基準法などの関係法令を含め、取り扱いが異なってくる。中鶴田幼稚園については改修工事により施設基準を満たした上で0歳から2歳の受入を行っていくほか、給付費についても施設類型の違いによる差はないため、運営にあたって支障はない。</p> <p>2点目について、お配りした地図や面積表などの他に、保育計画や財務計画等についても事業者からは提出いただいております。資料1でお示ししている、市内組織である児童福祉施設整備審査会において、適正な内容であることを、確認済みである。</p>
会長	<p>設置基準に則っていることは元より、施設の実情と合わせなければ様々な問題が起こってしまうため、現場の様々なご意見を参考にさせていただきたい。</p> <p>他に、質問・意見等はないか。</p>
各委員	(質問・意見等なし)
会長	本議題について、了承いただけるか。
各委員	了承。
事務局	<p>(2) 「(仮称)第6次障がい者福祉プラン」・「(仮称)第7期障がい福祉サービス計画・第3期障がい児福祉サービス計画」の策定について</p> <p>(事務局説明)</p>
会長	質問・意見等はあるか。
佐々木委員	<p>本会議では、今後のスケジュール等についてのご説明だったが、今後は計画の内容について検討していくことになる。その内容検討の際に、「これは違うのではないか」ということが最初からあってはならないため、これまでの宇都宮市の障がい児・者への福祉についての考えを述べさせていただく。第7期サービス計画は、主に大人の政策であり、第3期障がい児計画については、子どもについてといったように、大人の政策と子どもの政策に分かれている。この部分については、スムーズな移行が重要であると考えている。現状として、子どもの政策が終わった際、今まであったサービスが突然なくなってしまい、当該者が困るケースが起こっている。ぜひとも、移行がスムーズになるような計画を立てていただきたい。</p>

	<p>相談支援に関しては、子どものセルフプランが主になっている。相談委員を含めた計画づくりになると思うが、現在、相談員が不足しているため、それをどのように育成していくのかということ、非常に大きなことである。相談員が入って計画を立てていくということが、将来にわたっての安定的な移行につながってくると思うので、そういったところを重点的に、計画を立てていただきたい。</p> <p>また、地域社会に入っていくということは、地域社会への理解啓発が不可欠だが、現状として、まだまだ理解啓発が不足していると感じる。そういった点についても、今後、どのように取り組んでいくのか伺いたい。少なくとも、宇都宮市の施設に関しては、ヘルプマーク等について、もっと積極的にアピールを行い、子どもの頃から障がいについての理解をいただけるような計画を立てていただきたい。</p>
事務局	<p>まず、障がい児から障がい者への切れ目のない支援について、関係課である障がい福祉課と密に連携し、障がい児及び障がい者が対象となる第6次プランの検討を進めていく。</p> <p>また、それぞれの計画についても、同様に障がい福祉課と連携を取りながら検討していくこととなるため、切れ目のない移行支援を実施するということを念頭に置いて進めていきたいと考えている。</p> <p>また、相談支援専門員の件について、本市としても非常に大きな課題であると捉えており、相談支援専門員の養成を行う県と連携しながら、相談支援専門員の確保に努めていきたい。</p> <p>続いて、理解啓発については、ヘルプマークの活用も含め障がい福祉課と連携しながら検討していきたい。</p>
佐々木委員	<p>ご説明いただいたマークの取組を検討していただき、非常にありがたいが、一般の方がそれを知らなければ意味がない。公共施設等でポスター掲示するなど、周知・啓発に努めていただきたい。今現在、そういった周知が見受けられないことが現実である。ぜひ、そういった事業のアピールをしていただきたい。</p>
会長	<p>今後、こういった事業が発展していけるよう、地域の問題などの現状について意見をもらい、発展していけるような形で進めていただきたい。</p>
坪井委員	<p>今回、プランや計画を策定し、施策を進めていく中で、こども基本法の理念やそれに基づく施策等について、どのように位置付けているのか伺いたい。</p>

事務局	<p>子どもに関する法令等に関して、それらとの整合性を図りながら進めていくものであり、漏れのないようにして対応していきたい。</p>
中野委員	<p>現場で障がいがある方と接している方の声は、どの程度吸い上げられているのか。</p> <p>また、他の出来上がった計画を見てみると、どこかで現場との乖離が生じており、後から組みなおすことがある。先ほどの説明では、社会福祉協議会などから、1か月の間に話を聞くとのことだが、それだけで計画が出来上がるのかが疑問である。</p>
事務局	<p>まず1つ目につきましては、これまで、障がい福祉課と子ども発達センターそれぞれで、関係する団体の皆様との意見交換会を実施し、その中で意見を伺い、まとめているところである。さらに、5月から7月に、事業者と利用者の皆様に個別アンケートを発送し、意見を聴取しているところである。この意見をとりまとめ、今後の会議でお示しする予定である。</p> <p>子ども・子育て会議としては3回ということになっているが、当事者団体の方が委員になっている発達支援ネットワーク会議においても意見をいただく予定である。そういった中で、現場の方との乖離がないよう進めていきたい。</p>
中野委員	<p>もう1点、実際の計画には入らないかもしれないが、グレーゾーンの子どもが我々の行っている相談事業に来るのだが、そういった子たちのいわゆる「生きづらさ」が実際に感じられる。そういった子たちがサービスを受けられないことに関して、この計画に直接関わらないかもしれないが、いわゆるグレーゾーンの子どもは非常に多くおり、そういった子たちについても考慮していただきたい。</p>
海野委員	<p>今の説明の中で、障がい児を育てる家庭にアンケートを送付したとのことだが、それは、保育施設、幼稚園、こども園に通い、障がい児認定を受けた家庭すべてに送っているのか。</p> <p>また、各保育施設に、障がい児認定を受けずにいる子どもの中で、配慮や支援が必要な子どもは多くいる。そういった子たちの実数把握や、その子たちに対する支援計画をこの中にどう盛り込んでいくのか。</p> <p>また、障がい福祉課だけではなく、保育課などとも一緒に連携してやっていただけると、我々の声も吸い上げてもらえると思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>まず、1点目のアンケートの件については、障がい福祉課の障がい福祉サービスの受給者証を受けている方と、子ども発達センターで実施している</p>

	<p>障がい児通所サービスの支給決定を受けている方から無作為に抽出して発送したところである。</p> <p>また、グレーゾーンの子への支援については、子ども発達センターにおいて、「ここほっと巡回相談事業」を実施しており、園に出向き、先生方から、「この子を見てほしい」、「対応に困る子どもにどうしたらよいか」といった相談について具体的に支援する制度を実施している。まだまだ周知が足りないというところで全ての保育園、幼稚園で利用していただけるよう、具体的な周知策を検討していきたい。通常受給者証を受けられていないお子様、保護者については、「ここほっと巡回相談事業」やその他子ども発達センターの事業において支援させていただきたいと考えている。こうした点も、プランや計画には漏れなく盛り込みたいと考えている。</p>
海野 委員	<p>大変だとは思いますが、巡回相談の回数が足りていないと感じている。多くのお子さんが登園していて、年に2、3回では、回しきれないようなところもある。実際、その相談も、例えば、ケース検討会というところまで行ってほしい。人員や回数を増やすことを考えてもらえると現場としては大変助かる。</p>
会長	<p>実質サービスを受けている人だけを対象にするのではなく、様々な子どもたちがいるため、園と協力し、実態を把握しながら事業を進めていただければと思う。</p>
永田 委員	<p>説明があった「ここほっと巡回相談事業」などの仕組みに関しては、より一層良い形にして行くことを含めて計画していただきたい。「ここほっと巡回相談事業」を園として利用させていただき、園としてのその子に対する関わり方について相談に乗ってもらうなど、活用をしていきたい。</p> <p>しかし、グレーゾーンの子どもたちが取りこぼされてしまうという仕組みには変わりがないと思う。診断名がついて、様々な福祉サービスを受けられるお子さんと、その保護者にまだ至れない親子、家庭は非常に多い。だからといって診断名を付ければいいという話ではなく、そこに至るまでの仕組みすらも難しい。グレーゾーンにならざるを得ない子どもたちに関して、幼児期にかかわらず、青年期に向けて出てくる姿がある。青年期に向けて、グレーゾーンで生きてこざるを得なかった子どもたちがいるというところに対して理解してほしい。グレーゾーンの子どもとその保護者、ご家庭が頼れる場所があまりにも少なすぎる。特に子どもが小さければ小さいほど、その保護者が頼れる場所があることで、その保護者とその子自身を支えていくことになることを考えたときに、認定や診断名がついている子どもではないところにも視野を向けていただき、すくい上げられるような場所を計</p>

	画の中に入れてほしい。
会長	<p>皆さんの貴重な意見を反映していきたいと思う。現場の先生たちが「この子はどうなのか」と言うグレーゾーンについては、ある程度見ているが、なかなかうまくいっていない部分があると感じる。ぜひ、現場と密に連絡を取り合いながら、グレーゾーンを含む全てを把握して行ってほしい。</p> <p>また、子どもは宝であり、結果的に何をすればいいのか、将来的に何をやっていくのか、優先順位の問題はあると思うが、子どもが関わる以上、ぜひ委員の皆さんの力を借りて、サービス環境を充実させていきたいと思う。</p>
中野 委員	<p>「第3期障がい児福祉サービス計画」の参考資料2にある、構成員について、福祉部の方がまとめられる会議には、教育委員会の方がほとんど入っていない。なぜ、ここに教育関係の人がいないのか非常に不思議に思っている。今後は、委員の中に、学校教育課もしくは教育委員会の方が入る必要があると思う。</p>
会長	<p>小学校、中学校、高等学校の先生方がいるということで、教育委員会の方にも出席していただくよう、ご検討いただきたい。</p> <p>他に、質問・意見等はないか。</p>
各委員	(質問・意見等なし)
会長	本議題について、了承いただけるか。
各委員	了承。
	3 その他
会長	質問・意見等はあるか。
各委員	(質問・意見等なし)
	4 閉会
事務局	以上で、第1回宇都宮市子ども・子育て会議を閉会する。

	以上
--	----